



# わの会通信

Ver. 37

◆ H30.5.25 発行 発行元：NPO 法人わの会 住所：府中市住吉町 1-60-10 TEL/FAX：042-360-3626 ◆



学生ボランティア卒業生を送る会



2018.2.18

新春のつどい



## ご挨拶

わの会ヘルパーステーションあいあいのご利用者さん（多摩市在住）が難病 ALS で、昨年 12 月に呼吸器を付け、自宅に戻り 24 時間の介護を必要としています。多摩市は、夜間はご家族で見て下さいと。1日 5 時間分しか介護時間が支給されず、奥さんは、持病を悪化させ、入院されてしまいました。

又、視覚障害で寝たきり状態の A 子さん（若松町在住）は、身体状況が良くなっているとは言えないという見解を示しているのに、介護 5 から 4 になりました。そのため障害支援時間が削られ、一時期 2 時間の自費対応をせざるを得ませんでした。御家族の異議申し立てによって一部改善されました。介護をめぐる状況は一段と厳しさを増しています。

命を守り、生きるための仕組みが削り取られて来ていると思える今日、みなさん「踏まれたら痛い」と一緒に声をあげましょう！

NPO 法人わの会理事長 佐々木 公一



特定非営利活動法人 **わの会**  
府中市住吉町 1-60-10  
TEL：042-360-3626

### 【5つの事業】

- ①府中自立支援ネットワークわの会(自立支援)
- ②デイサービスりんりん(地域密着型通所介護)
- ③重度訪問介護従業者養成研修講座(研修事業)
- ④ヘルパーステーションあいあい(訪問介護)
- ⑤わの会相談支援事業(相談事業)



# 平成 29 年度各事業報告

自立支援ネットワーク  
わの会



府中自立支援ネットワークわの会の利用会員は、高齢層 16 人、障害者 45 人、子供 2 人合計 63 人の方々がおられ、協力会員は 109 人です。



事務局長 志鎌 哲

## 総括

プログラムの開催実績から見て、回数と参加者がそれぞれ増加している。平成 29 年度の新会員は、17 名に達し、相談も 39 人の方から、811 件を数えた。当年度の目標として掲げていた相談体制の強化、会員間の交流機会の増加、参加者の拡大が達成出来たと考えられる。プログラムの参加者が増えると人が人を呼ぶようになりプログラムの規模も拡大している。定期今年度は、運営委員会を委員のみならず会員

にオブザーバー参加してもらうことで活性化させ、地域生活における福祉ニーズを利用者たる会員に直接語ってもらう機会とすることができた。利用者が自らの役割や目的をもってプログラムへ参加し、スタッフやボランティアもそれを理解しながら必要な支援を行うといった「主体的な参加」ができるようになったのではないか。

## 今後の課題・問題点

相談の回数が増えてきているが、一方で電話相談などの内容の整理、記録の方法など事務的処理も求められるようになった。事務量の増加、相談のスキル向上に対応していく必要がある。各プログラムの運営規模が、会場や担い手の数にしては大きくなってきており、分散化するなどの手を打つ必要がある。しかし、その分運営

コストも上がってしまう。各プログラムの参加費は、その会のみのコスト回収ができる程度に設定しており、事務局/コーディネート運営のコストは補助金と資金作りで賄っているため安定しているものとはいえない。利用料や送迎費などについては、利用者の声を生かしながら検討を重ねる。整理が必要。

## わの会研修事業



ヘルパー不足の解消のため、ヘルパー養成研修を行って 5 年、29 年度は 4 回実施し、51 人の受講生がヘルパー資格を取得した。受講者は、市内・市外 5 ヘルパー事務所及び、他業種（福祉作業所、グループホーム）からの参加者も増えています。

29 年は、看護学校や教育機関との連携を深めていくために、学校を訪問し教員との交流を始めました。30 年度さらに訪問回数を増やし、充実して行きたい。（事務局長 志鎌 哲）

## 受講者のアンケートより抜粋



今までの介護・介助のイメージが大きく変化しました。今まではただただ「大変」というイメージが大きかったけれどいろんなことを学びこの仕事の魅力をすごく感じました。健康な人も、重い障害を持っていてひとりで生活することが困難な人も、全ての人々がその人らしく尊厳を守られた市絵活を送ることができる社会をつくるために貢献できる介護・介助の仕事は本当に素晴らしいと思いました。



# わ

の会相談支援は平成26年12月に開設してから3年を経て、ひと月あたり20件の計画やモニタリングをこなせるようになりました。相談員は1名で対応していますが、管理者を兼務のほか、請求業務や介護事業所探し、会議日程の調整など相談に付随する業務も増えている。

そのため相談の質の維持や研修によるスキル向上ができるか心配があります。相談員やサポートスタッフの補充をしたいのですが、対象となる人員が見つからないことや、引き継ぐための準備も必要なため中々動けない状況があります。

(事務局長 志鎌 哲)



## デイサービスりんりんの地域連携について

わの会デイサービスもこの地で15年目に入ります。29年度も、地域との連携を求め、日新小学校の運動会の見学、四谷文化センターまつりに参加、餅つき大会など開催し、近隣の方々との交流を深めるよう努力しました。

**運動会**では学校側が特別席を設けてくださって、利用者さんも声をあげて応援する方もおられました。四谷文化センターでは、元利用者さんの御家族にお会いすることができ、私たちが地域の方々に紹介してくださるといった場面がありました。

**餅つき**には、近所の子供たちも来られ、ワタ飴などで楽しんでいました。餅つき用具は元利用者さんの御家族が自宅から運んできて貸し



管理者 津田 久美

てくださったもの、おかげさまで利用者さんも一緒に来られた御家族、ご協力くださったボランティアの方々みなさんで、おいしい、楽しい餅つきを行うことができました。

29年度も多くの方々のご協力をいただき、「地域とつながっている」「地域に支えられている」ことが実感できる取り組みになりましたさらに社会福祉協議会が主催した認知症講演会に、りんりんの認知症の介護実践をもって、パネラー参加できたはこれまでにない大きな経験でした。450人も参加された方々に、りんりんの認知症介護実践を紹介できる機会を与えていただけたことは、これまでにない学びの場ともなりました。

30年度は、認知症対応型デイサービス第2りんりんをとりやめ、一般的なデイサービス(第1)に1本化して運営してまいります。幸い、第2りんりんの利用者はみなさん第1に移行されました。名称は変わりましたがこれまで同様、認知症ケアを大切にしながら、利用者さん、御家族のおもいに寄り添った介護をしっかりと取り組めるように、これまで以上に努力していきたいとスタッフ一同、気を引き締めています。





29年度は、サービス提供責任者を1名増員することができて、下記のような改善が行われました。

- ★常勤会議が週1回、ほぼ固定され、全体の利用者の状態が共通認識できるようになった。
- ★サ責1人あたりの受け持ち人数が平均して16名から12名に。(利用者によるが)定期訪問が行えるようになったことで、要望の汲み取り安さも出ている。
- ★ヘルパーからの要望であった利用者ごとの担当者会議が少しずつ開催されている。
- ★ヘルパーとの対話も(主に苦情に関しては)できるようになった。
- ★滞っていた事務仕事が、全てではないが改善されている。
- ★以前より事務所にサービス提供責任者がいる時間が増え、連絡がつくようになった。
- ★訪問時間数が28年度より、29年度557時間に増えた。



管理者 高橋 直子



### ❦ H30年度の課題

介護保険法改定に伴い“生活援助”が一段と制限され、利用者の生活を安定的に守っていけるか心配になるほどです。

#### ①利用者への満足度調査を実施

- ・要望に添うサービス提供を実施する
- ・利用者ごとの担当者会議を定期的に行い、事例検討の強化を図る

#### ②ヘルパーアンケートに基づくサービス改善

- ・家庭環境や自身の身体状況を踏まえた働きやすい環境を整える
- ・サービス提供責任者を増員する。

#### ③働きやすい・相談しやすい職場作りを工夫

- ・定期的な食事会、お茶会等で横の繋がりを強化する
- ・気軽に事務所へ立ち寄り、いろいろな話をする事で、士気を高める環境を作る
- ・人材確保のためにも、一目で分かりやすい給与を提示できる様にする
- ・処遇改善加算の支払い方法を検討

## H29年度 実施

### 利用者さん、スタッフのアンケート結果について

29年度、2月1日～3月1日の期間に、利用者さん及びスタッフに対する法人としてのアンケートを実施しました。ご協力頂きました皆様にお礼を申し上げます。

あいあいの利用者さんによる回答は5人、御家族はの回答率は38パーセント(17人提出)、わの会スタッフの回答率はネット3人、りんりん8人いずれもスタッフのみで100パーセント、あいあいは37人で65パーセントでした。

要望や苦情、御意見は速やかに改善できるよう対応させていただきます。研修や会議等、スタッフのチームワークの向上のための御意見には、各種研修やミーティング等で改善してまいります。

今後は、年1回のアンケート待ちではなく、日ごろから、働きやすい場の改善に、そして利用者さんのお気持ちを大切に、心のこもった介護、相談事業の運営に努めてまいります。

## わの会スタッフより



### 意見、感想など

★利用者さんとの会話の中で、担当者の対応や言葉かけなどが信頼関係に繋がっていることを感じます。堅苦しい雰囲気ではなく、家族のような時には友人のような距離で安心感がもてる暖かさがあり、私自身もその雰囲気にまもられながら、働かせて頂いています。

★同じ方を担当していますが、利用者さんとの距離が縮まらないように心がけています。頼ってくださったり、任せてくれることがあると嬉しく思いますが、あくまでもヘルパーとして接していきたいです。



### わの会らしさとは？

●わの会に関わる高齢者、障がい者、子どもだけでなく、スタッフ同士の交流を増やす「わ」があると、わの会らしさというのが感じられるのではないのでしょうか。

●利用者目線をととても大事にしているところが、あいあい、わの会らしさと思います。

●こまめな対応をして頂いていると感じます。

## 利用者さんより



◆いつも時間どおりに来ていただけるので安心です。担当者が変わる時期もありますが、後任の方への引継ぎがしっかりしているので、不安なくお願いできる事業所です。これからもどうぞよろしくお願い致します。ヘルパーさんの処遇が改善されていくことを願っています

◆コミュニケーションを図り辛い方がいる。

★日々のケアで反省しつつ、次に活かそうと思って取り組んでいます。コンスタントに私を使ってくれる利用者様がいてくださってありがたく思っています。

★多岐のケース検討をしたいです。地域における社会資源、使い方、障害児から難病まで多岐にわたり、知識がないと対応する事が難しく感じる事が最近増えました。

★ヘルパー間の連携が少ないように感じる。特に学生ヘルパーは、勤務に波がある（実習等の学業を理由に勤務しない月がある）ため、連絡ノート以外での連携があると良いと感じました。

★利用者さんと関わる際は、様々な事に配慮等必要なことが多く、やりがいはあるが、他に比べて時給が安いので、もう少し頂けるとありがたいです。

●率直に意見が言えるところ、みんなで考えてやっていこうとする職場だと思います。

●重い認知症の方から、身体的重度の方、そして軽度の方など、りんりんに対応できる限りの方を受け入れ、対応してきている点は、りんりんさしさを感じます。

●十人十色でスタッフや利用者さんがそれぞれの個性を生かし、認め合い助け合い協力しあっている事が出来る場所だと思う。元気になる場所。利用者さんからも家族からも良く聞かれる。

◆物品を元に戻せない人はだいたい決まっている。

◆自分から注意しないとやってもらえないことがある。

◆いつもテキパキと入浴準備から片づけまでをしていただいて感謝しています。私達家族も安心していつも入浴をお任せしています。今後ともよろしく願いいたします。



# 平成 29 年度NPO法人わの会研修の報告

平成 29 年 3 月 25 日、テーマ：「介護保険制度の行方と介護労働者の役割」を、日本医療労働組合執行委員 米沢哲氏に講演して頂きました。

## 要 旨

「介護保険法第 1 条から、介護労働者の役割を解き、介護の目的が、わの会の理念に共通していること。しかし、介護保険制度はこれまでにたびたび見直され、この 18 年度もさらに利用料を 3 割に引き上げ、「自立」の「強要」にもつながりかねない「自立支援」を掲げサービスの削減を提起している。しかし、一方では利用者、家族、事業者等が改悪ストップのための取り組みを強めている。例えば福祉用具の業者は、介護保険でベッドなどの使用を外すという国の方針を阻止したこと、28 年度に行った介護報酬引き下げの反発にあって 30 年度は

微々たるものであるがプラス改定につなげたこと。また介護の専門職としての私たちの役割は、利用者本位の制度を守り、介護離職を出さないための社会システムを創り、一方では家族の介護負担の軽減に努め「保険あって介護なし」にさせないようにすることが大事になってきている。そのためには、いろいろな人や団体とつながって、介護をよくする協同を広げることの重要性について話されました。



## 参加者の声

- ♥ 社会保障が改悪される仕組みが 2012 年の社会保障制度改革推進法によるものだったことを見落としていた。そこから改悪が進んでいた。国民が委託した国会で、しっかり見ていかないといけない。
- ♥ 介護制度は、5 年ごとにきつくなる。ケアプランも大切だが私達も利用者にとって必要なことを訴えて行くことが大切。
- ♥ 地域の力でかかわってもらおうという国の方針だが、すんなりできているか不安。
- ♥ 加算ではよくなる。基本単価が大事。現在は不十分。不安定。(2 人)
- ♥ 前年度比較を常に行っているが、長いスパンで見ると大きく減っている事に気が付かされた。私達も流れに流されないように。

- ♥ 本来、介護はこうあるべきを考えさせられた。ヘルパーは働きにくく利用者も利用しにくい。本来の介護保険に戻すにはどのように声を上げるのか考えさせられた。
- ♥ わの会でこれまで出来なかった政策的なこと、政治的なことが学べた。1 回だけでなく引き続きやりたいテーマだ。
- ♥ 社会保障のそもそも論の学びの大切さを感じた。
- ♥ 介護保険のことは良く分からなかったが社会保障のことは気になった。
- ♥ 講演者が現場からのたたき上げの方で勉強している人、努力の人でよかった。昔の看護師の世界の話にはびっくり！